

閉校して6年、未だに決まっていな 旧東陵中学校の利活用を問う

町長 日本語学校の寄宿舎として業者と協議中

古谷 ①閉校して6年を迎える旧東陵中学校の方向性は決まったか。

②凍結中止したひらふ地区観光中核施設、国際会議場のこれからの方向性は。

③実施設計中の役場庁舎建設は物価及び人件費の高騰そして目標工期、及び提示されている金額で大丈夫か伺う。

町長

①7月に日本語を学ぶための語学学校の寄宿舎として施設の使用方法を含め



古谷 眞司 議員

た見取り図とともに業者の相談を受けている。規模は、受入れ外国人80名程度、教員6名程度と想定しており、施設利用の可否や、処分または貸し付け方法、あるいは費用の負担方法等を検討協議している。決定時期は未定であるが、出来るだけ協議を早めていく。

②観光中核施設と国際会議場の今後の方向性について、3月の定例会で、観光中核施設の中止と国際会議場を断念したことにより、二セコひらふ地区の観光施策を推進するための施設整備が立ちどまっているが、各施設に求めた機能は、この地区には必要。

今後の俱知安観光の基本的方向や推進策をまとめた観光振興基本計画について、平成32年度から



国道 393 号線から見る旧東陵中学校

の新たな計画策定に向けた課題整理と現計画の施策の検証、振り返りを行うっており、今後、他の施策とのかかわりを勘案しつつ、計画を取りまとめしていく。

③新役場庁舎建設は現在、実施設計中であり、細部の検討を行っている。懸念される工期や資材費などの高騰に関しても実施設計の中でできるだけ経

費の縮減が図れるよう積算中であり、それに伴う工期も精査中。

基本設計で設定した費用や、スケジュールに納めるよう精査する。

教員加配の効果と、小中学生の通学時の持ち物の軽減を問う

古谷

①中学校では確かな学力の育成を目的に、各学年4クラス以上で編成するため、町独自で教員加配をしている。学習面その他の効果を伺う。

②小中学生の通学時の持ち物の軽減の取り組みを伺う。

教育長

①1学級当たりの生徒数を抑えることにより、生徒一人一人に教員の目が行き届く学習環境が整い、指導の充実につながる。

また、習熟度別やチームティーチングで生徒の実態に応じた指導体制が組めること、さらに、多様化した生徒の悩みや問題行動等に対しても、

きめ細かに力を注ぐことができ、教員の指導体制の充実による成果は学校生活のさまざまな面であらわ。

②各学校で実態に合わせて対応している。教科書以外の副読本、副教材などは学校に置くなど取り組んでいる。



小学5年生のいつもより少ないカバンの中身 4.5kg

一般質問 古谷眞司